

群 教 セ	G01 - 04
	平16.218集

# 文章表現力を向上する国語科指導の工夫

——表現効果カードを活用した活動を取り入れて——

長期研修員 皿山 倫義

## 《研究の概要》

本研究は、「書くこと」の指導において、生徒が効果的に表現することのできる力を身に付け、文章表現力を向上することができるよう指導の工夫を行ったものである。具体的には、表現効果カードを活用した活動を取り入れた。題材中の優れた表現（効果的な表現）に接して、その条件を探り、自己の文章表現に活用するための公式作りを行い、その後、各自が表現する学習に取り組んだ。なお、題材として「徒然草」と「方丈記」を扱った。

【キーワード：国語—高 表現力 表現効果 公式作り 古典】

## I 主題設定の理由

平成11年3月に告示された高等学校学習指導要領国語編は、社会の変化の中で生き抜くために必要となる言語能力の育成を図るというものである。国語科指導の現場においては、今まさに指導法の改善、教師の意識変革が求められている。ところが、私自身を含めた高等学校での授業に目を向けてみると、新学習指導要領が実施されているにもかかわらず、表現、とりわけ文章表現に関する指導を積極的に取り入れているという状況があまり聞かれない。生徒が作文を嫌がるので、教師が指導に消極的になっていることが原因の一つと思われる。授業で「今日は作文を書きましょう」と教師が言うやいなや「えーっ」という生徒の大合唱が教室に響き渡るといった経験は私だけのものではないであろう。しかし、生徒は文章表現に対して匙を投げてしまっているのかというところでもない。置籍校の生徒192名に実施したアンケートによると、実に95パーセントの生徒が文章表現力を向上させたいと答えている。この背景には大学入試や就職試験のために文章がうまくなりたいという実利を求める生徒の心理もあろうが、生徒が文章表現の学習を嫌がっているというのは教師側の思い込みであり、生徒は書く意欲、表現する意欲にあふれていると言える。この意欲を学習活動にうまく活用し、文章がうまくなりたいという切実な思いを何とかかなえさせたいと考えた。さらに、生徒が文章表現力の向上を目指す中で、実利を追求するところから発した書くことへの意欲を、純粋に文章を書きたいという意欲へと転化することができれば、本研究の意義はより一層増すものと確信する。

さて、文章表現指導が積極的に取り入れられていない責任の一端は教師側にあると考える。私自身の実践を振り返ると、「よい文章」という漠然とした定義のもとに表現指導を展開しようとしていた傾向がある。何をもちよよい文章とするかは難しい課題であるが、文章表現指導をする際、よい文章を書くための具体的かつ明確な学習目標を設定することで、生徒は文章表現力を確実に向上することができるはずである。そこで本研究では「表現効果」という点に絞って学習目標を設定し、文章表現力を向上する指導の工夫に取り組むこととした。具体的には表現効果カードを作成し、文章中の効果的な表現を自己の文章表現に活用することのできる資質、能力を育成することをねらいとする。表現効果カードとは、題材中の表現、内容、構成等、表現上効果的と思われる事例を挙げ、自己の文章表現に活用するために事例を分析し、カードに記述するというものである。効果的に表現し、文章表現力を向上するために、いわば公式作りを行うのである。公式作りを通して、様々な表現方法を身に付けることができると考えた。

以上のことから、表現力を向上する指導において、表現効果カードを活用することによって、効果的な表現をすることができると考え、本主題を設定した。

## Ⅱ 研究のねらい

文章表現の指導において、表現効果カードを活用した活動を取り入れれば、効果的に表現することのできる力が身に付き、文章表現力を向上することができるということを実践を通して明らかにする。

## Ⅲ 研究の見通し

- 1 効果的な表現方法を知る場において、例示された表現効果カードや文を比較、検討する活動を取り入れれば、様々な表現がもたらす効果の重要性に気付くようになり、文章中の効果を探る視点をもつことができるであろう。
- 2 効果的な表現方法を探る場において、表現効果カードを作成する活動を取り入れれば、表現効果について分析する力が育つようになり、様々な表現方法を身に付けることができるであろう。
- 3 身に付けた表現方法を活用する場において、作成した表現効果カードを基に検討する活動を取り入れれば、目的や場面などに応じて効果的に表現する力を身に付け、文章表現力を向上することができるであろう。

## Ⅳ 研究の内容と方法

### 1 研究の内容

#### (1) 文章表現力を向上することとは

文章表現力を向上することとは、読み手を意識した上で平明さと個性とを備えた文章を実現することであると考え。どんなに語彙が豊富であっても、難解で相手に伝わらない文章は自己満足にすぎない。そうかといって、内容が分かりやすくとも、無味乾燥な文章では読む者を退屈させてしまう。このことは、常に相手を意識して表現することの重要性を意味している。

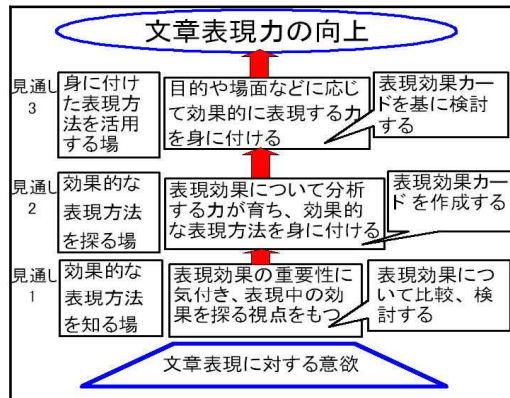
本研究は、効果的に表現するための様々な表現方法を学ぶことを目指している。したがって、科目や題材のジャンル、校種、学年を問わないものであり、換言すれば、様々な形式や特性を学ぶことにこそ意味がある。そこで、題材にはあえて古典を扱いたい。なぜならば、古典を学ぶことが現代語における文章表現力を向上することに有効であると考えからである。古典作品や名作と呼ばれる作品には、簡にして要を得た表現など我々が学ぶべき表現がたくさんある。こうした優れた表現の背景にある発想や構想、語一つ一つの美しさや面白さ、表現方法の工夫などを探り、それらを消化し、自己の表現に活用することで分かりやすく個性のある文を書くことのできる力を備えた生徒を育成したい。

#### (2) 表現効果カードの活用とは

表現効果カードとは、題材中効果的と思われる語や表現を生徒自身が分析し、どのように表現すれば、どのような効果が生じるかを公式としてカードに記述したものである。このカードを使った学習活動では、まず、効果的な表現を具体的に例示し、その表現がもたらす効果を検証し、効果的な表現が施されている文と施されていない文とを比較する活動が必要となっていく

る。表現の効果には、リズムを生んだり、説得力を増したり、あるいは、分かりやすく伝えたりするものなど様々なものが考えられる。また、表現の工夫には語や言い回しを工夫したり、文章全体の構成を工夫をしたりというように様々な方法がある。こうした文章中の効果を探る視点をもつことが、カード作成の前提条件となるのである。そのためには、過去に学習した題材や、教科書以外で教師が例示した題材を通して、どのような点が文章の効果や個性となっ

### 研究構想図



ているのかを表現効果カード例を使って学ぶ場面を設定したい。表現効果に対するイメージが漠としたまま、いきなりカード作成に取り組んでも、効果を探る視点が定まらないと考えるからである。

次に、表現効果にはどのような方法があるかを大まかに把握した後、題材の中の表現効果を探る活動（表現効果カード作成）に入る。古典を扱うに当たっては、原文だけでなく、口語訳を付したものを教材として提示したい。本研究では、古典を通して表現を学ぶことに主眼を置いているので、細かい語釈や口語訳をする活動はできるだけ行わず、古典作品に現れた表現の効果を探ることを主たる学習活動と位置付けたいからである。古典は

現代文に比して短く、表現上の特色もとらえやすい。例えば、倒置法や反語といった修辞法も定型化していて、書き手の使う意図も現代文に比べはっきりしている。こういう意味で公式を探るには、現代文よりも古典の方がその効果を指摘しやすいと考える。表現効果カードに書かれた内容は、自己評価だけでなく、生徒同士による相互評価、教師による評価も経て、合理的であるか否かを検証しなければならない。その表現方法が使われていることで、効果を生み個性的な文章となっているか、現代の文章を書く際、どのような場面でその表現方法が使えるかを考察する場面も設ける必要がある。こうした公式作りを通して、読み手を意識する態度が自然と養われ、効果的な表現方法を身に付けることができるであろう。

最後に、カードに書いた公式を基に表現したり、課題文を効果的な表現が施された文に書き換えたりする活動を取り入れる。表現したり書き直したりしたものが、読み手に面白いと思わせる文になっているか、または、書き直すことで書き手の意図がより明瞭に読み手に伝わる文となっているかを考え、相互に検討、推敲をしながら表現活動に取り組みたい。そうすることで身に付けた様々な表現方法を目的や場面などに応じて適切に活用する力が身に付くと考える。

## 2 研究の方法

効果的な表現をすることのできる生徒の育成を目指す本研究では、研究の見直しに基づき、次のような実践によって検証する。

### (1) 研究実践の計画

群馬県立高崎商業高等学校	1年2組	10月19日～10月22日	授業者	長期研修員	皿山倫義	時間	4時間
科目名	国語総合   題材名   随筆「徒然草」「方丈記」						
抽出生徒 A子	事前調査において、A子は「文章表現が得意ではなく、文章表現力を向上させたい」と回答している。文章表現力を向上させたい理由は、「社会に出た時及び就職試験で必要とするから」というものであった。しかし、文章を自ら書く機会は少なく、表現力を高めるということに対する具体的な意識はない。したがって、文章表現に対する苦手意識も強く、うまくはなりたいたが、どうやって書いたらよいか分からないというジレンマに陥っている生徒である。こうした状況は、本校生徒の一般的な傾向である。 表現力を高めるための指針、すなわち表現効果という視点を明確に示すことで、表現力の向上を図り、効果的で個性的な表現を自己の文章に実現することができれば、より一層文章表現に対する意欲を高めることができると考えられる。効果的な表現を実現することによって、書くことに対する自信をもち、自ら進んで意欲的に書く生徒へと育てたい。						

## (2) 検証場所と方法の見通し

見通し	検証場所	検証の観点	検証方法
見通し1	効果的な表現方法を知る場	表現効果カード例及び効果的な表現が施された文と施されていない文を使って、どのような表現が表現上の効果を生み出しているかを比較、検討する活動が、文章表現における表現効果の重要性に気づき、文章中の表現効果を探る視点をもつことに有効であったか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動の記録（VTR）の分析</li> <li>・表現方法を知ることにかかわる発言内容、発言態度の検証</li> <li>・ワークシート①②の分析</li> <li>・自己評価表①の分析</li> </ul>
見通し2	効果的な表現方法を探る場	題材中の表現に着目し、表現効果カードを作成し、公式を作るという活動が、表現効果について分析する力を育成し、様々な表現方法を身に付けることに有効であったか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動の記録（VTR）の分析</li> <li>・効果进行分析する視点にかかわる発言内容、発言態度の検証</li> <li>・表現効果カードの内容の分析</li> <li>・メモの分析・自己評価表②の分析</li> </ul>
見通し3	身に付けた表現方法を活用する場	作成した表現効果カード（公式）をどのように文章表現に活用するかを検討する活動が、目的や場面などに応じて適切に表現する力を身に付けるのに有効であったか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動の記録（VTR）の分析</li> <li>・検討の様子を検証</li> <li>・ワークシート③の分析</li> <li>・自己評価表③の分析</li> </ul>

## V 研究の展開

### 1 本題材を通じて育てたい言語能力

題材中の優れた表現（効果的な表現）に接して、その条件を探り、自己の文章表現に活用する能力

**2 題材名** 徒然草（亀山殿の水車・仁和寺にある法師・丹波に出雲といふ所あり・奥山に、猫またといふものありて）・方丈記（ゆく河の流れ）

### 3 題材の考察

「徒然草」と「方丈記」は言わずと知れた日本の古典随筆の傑作である。両書には共通する部分もあるが、「方丈記」が整然とした論理でまとめあげられているのに対し、「徒然草」は形式にとらわれず、柔軟な姿勢で書かれており、まさに随筆と呼ぶにふさわしい。教科書に収載された題材も対照的な組み合わせとなっている。「徒然草」では日常の人間の姿にスポットを当て、兼好の鋭い視点とユーモアでもって人間の心理、行動が見事に描かれた説話的章段が採られているのに対し、「方丈記」では比喩や倒置法といった修辞法を通して、筆者の思想が論理的に展開されている序章が採られている。前者は、単にストーリーを叙述するにとどまらず、兼好自身の思想、信念が簡潔かつ的確に表されており、表現中には筆者の意図を効果的に読者に伝えるための様々な工夫が施されている。また、後者には比喩や倒置法といった修辞法がらりばめられ、それらが文の調子を高めるだけでなく、そこに表された筆者の思想をより具現化し、読者に語りかけてくる迫力がある。こうした対照的な二つの題材を通して、生徒は様々な表現方法を学び、それらを自己の文章表現に活用するという本研究の目的を達成することができる考えた。

### 4 「徒然草」「方丈記」の目標及び評価規準

目標	「徒然草」「方丈記」に施された効果的な表現方法を理解し、自己の文章表現に活用する。		
評価規準	国語への関心・意欲・態度	書くこと	言語についての知識・理解
	題材中の効果的な表現を発見し、その条件について考え、自己の文章表現に活用しようとしている。	様々な表現方法を使って、より効果的に文章表現することができる。	文章表現における様々な修辞法や構成等の工夫について理解している。

5 指導と評価の計画(全4時間) ※一部のみ掲載、詳細は資料編参照

過程	主な学習活動	形態 時間	学習への支援	評価規準		
				国語への関心・意欲・態度	書くこと	言語についての知識・理解
見 通 し 1	○ワークシート①を使った学習 ・文章表現する上で効果的な表現をするための様々な方法があることを知る。 ・効果的な表現が施された文と施されていない文とを比較・検討し、効果的な表現方法を探るための視点をもつ。	全 個	・効果的な表現方法を身近なものができるよう、できるだけ身近な例を示す。 ・効果的な表現方法を養われるよう、効果的な表現が施された文と施されていない文とを比較・検討したり、話し合ったりする活動を取り入れる。	◇文章表現力を向上させるために、効果的な表現方法とはどういうものかを理解しようとしている。  (十分満足とする状況・態度) ・様々な表現方法がもたらす効果について具体的に分析し、考えている。	◇効果的な表現が施された文と施されていない文とを互いに書き換えることができる。  (十分満足とする状況) ・表現効果の条件を理解した上で効果的な表現が施された文と施されていない文とを互いに書き換えることができる。	◇文章表現力向上の条件を理解している。 ◇効果的な表現方法とその効果について理解している。  (十分満足とする状況) ・自己の体験と照らし合わせながら文章表現力向上の条件を理解している。 ・効果的な表現方法を分類、整理して理解している。
	◎ワークシート②(表現効果カード例)を使った学習 ・表現効果カードの作り方を学ぶ。	全 個	・表現効果カード例は内容のすべてを例示するのではなく、生徒が書き込みながら作成方法を学べるように工夫する。	◇表現効果カードの役割を理解し、ワークシート②の中の表現効果カード例を完成しようとしている。  (十分満足とする状況・態度) ・ワークシート②に書かれた例文と表現効果カード例とを比較、検討し、現代の表現における様々な活用の仕方を吟味している。	◇効果的な表現方法を適切な言葉を使って公式として表現している。  (十分満足とする状況) ・単に分かりやすいというだけでなく、読み手に印象づけるように公式として表現している。	◇文の構成や表現方法について理解している。  (十分満足とする状況) ・現代文と古典との相違や共通点を認識した上で、文の構成や表現方法について理解している。
見 通 し	◎題材を読み、表現効果カードを作成する。 ・各題材を読み、効果的な表現方法を探る。 ・それぞれの表現がもたらす効果について考える。 ・自己の文章表現に活用するために公式にする。	課 グ	・効果的な表現方法に気付くよう、原文と口語訳の比較をしたり、原文を音読したりする活動を取り入れる。 ・効果的な表現方法を幾つか例示する。(構成・リズム・修辞・引用……)	◇各題材における筆者の表現意図と効果的な表現について考え、表現効果カード作成に取り組んでいる。  (十分満足とする状況・態度) ・様々な観点から効果的な表現について考え、文章の内容と照らし合わせながら吟味している。	◇効果的な表現を発見し、それらを適切な言葉で公式にしている。  (十分満足とする状況) ・題材の内容と関連させながら、効果的な表現を発見し、それらを適切な言葉で公式にしている。	◇文章構成や修辞法の働きについて正しく理解している。  (十分満足とする状況) ・現代文と古典との相違や共通点を認識した上で、文章構成や修辞法について正しく理解している。
2	◎作成した公式が合理的かどうかを検討し、相互に評価し合う。	課 グ	・生徒が探り当てた表現方法がどのような場面で見えるかを考えさせ、具体的な目的や場面を与える。 ・具体的な評価項目を示す。	◇自己の文章に活用する、また様々な表現に活用できるという観点から公式が妥当かどうかを検討しようとしている。  (十分満足とする状況・態度) ・具体的な目的や場面を想定して、公式が妥当かどうかを検討しようとしている。	◇作成した公式の良い点、悪い点を適切な言葉でメモし、互いにアドバイスしている。  (十分満足とする状況) ・検討の視点を明確にし、具体的な用例を考えながら、アドバイスを内容にメモしている。	◇表現方法とそれがもたらす効果について正しく理解している。  (十分満足とする状況) ・便覧や辞書等の資料と他の生徒が作成した公式とを照らし合わせることで、公式への理解を深めている。
見 通 し 3	◎ワークシート③を使った学習 ・作成し、検討された表現効果カードを基に、表現したり、例示された文をより効果的に伝えるよう直したりする。	課 グ	・作成した様々な公式が使えるような例題(ワークシート③)を多く提示する。 ・生徒の発想を生かすことができるよう、生徒の提示した例も取り上げる。 ・自己の表現力の高まりを実感できるように相互評価や教師による評価を取り入れる。	◇作成した公式を基に、自己の表現に活用しようとしている。  (十分満足とする状況・態度) ・表現効果カードに書かれた公式を使って、より効果的な表現について推敲しながら、表現しようとしている。	◇作成した公式を基に、適切な言葉でより効果的に表現することができる。  (十分満足とする状況) ・例題における表現の目的、場面を理解した上でより効果的に表現することができる。	◇効果的な表現を施した文と例題で示した文とを比較し、効果的な表現について正しく理解している。  (十分満足とする状況) ・他の様々な表現も念頭に置きながら、効果的な表現について正しく理解している。
	◎効果的になるよう表現した文、文章を検討したり、評価し合ったりする。					

注：形態における全は全体、課グは課題別グループ、個は個人

：主な学習活動における◎はその時間の中心となる学習活動

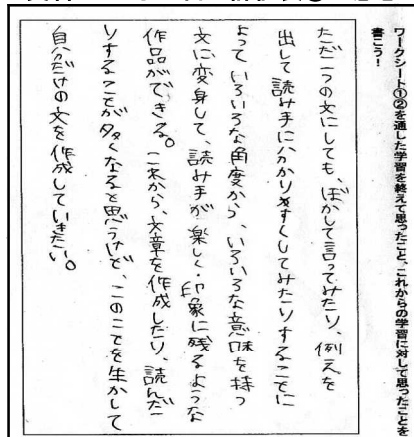
## VI 研究の結果と考察

### 1 例示された表現効果カードや文を比較、考察する活動が様々な表現がもたらす効果の重要性に気づき、文章中の効果を探る視点をもつことに有効であったか

表現効果カード作成の前段階として、ワークシート①、②（資料編参照）を使った。ワークシート①では「よい文章」の条件が「個性」と「平明さ」であることを確認した上で、効果的な表現が施された文と施されていない文とを比較する表を示し、互いに書き換えたり、表現の工夫がどのような視点で施されているかを考えたりする活動を行った。ワークシート②では表現効果カード作成の要領が理解できるよう、「枕草子（春はあけぼの）」を例文として扱い、効果的な表現について考察する活動を行った。自己評価表で95パーセントの生徒が「文章表現がうまくなるためのめあてがもてた」と答えたこと、92パーセントの生徒が「効果的な表現の働きが分かる」と答えたことなどから、この学習の目標が明確になり、次時への学習活動への動機付けに本時の学習が有効であったことがうかがえる。また、効果的に表現するためにどのような工夫がなされているかという発問を投げかけたところ、生徒から「語や表現の工夫」だけでなく、「構成、展開の工夫」という意見も出た。このことから、様々な例文に触れ、比較、検討することで効果的な表現を探る視点が身に付いたと考えられる。

A子は、効果的に表現し文章表現力を向上するための工夫には「語や言い回し」、「構成や展開」の工夫があると、うなずきながらワークシート①に記入していた。自己評価表①（資料1及び資料編参照）の感想の中で、様々な工夫によって文が変わると記述していることから、効果的な表現に対する理解を得、効果的な表現を探るためのめあてをもつことによって学習への自信を深めたものと思われる。文章表現学習に対する具体的な学習方法がつかめずにいたA子だが、「自分だけの文を作成していきたい」と自己評価表で述べているように、効果的に表現するという学習の目標を明確にとらえ、表現学習への意欲を高めたものと考えられる。

資料1 A子の自己評価表①の感想



### 2 表現効果カードを作成する活動が表現効果について分析する力を育て、様々な表現方法を身に付けるのに有効であったか

表現効果カード作成に当たっては、40人の生徒を6班に分けてTTを行った。班学習の形態をとることで、効果的な表現を探るのに様々な角度から題材を読むことができ、生徒の活動も活発になると考えたからだ。このことが奏功し、生徒は様々な表現の効果を探り、それを公式にすることができた（資料2）。約90パーセントの生徒が、自己評価表②（資料編参照）で「題材の中から効果的な表現を抜き出し、表現効果カードに記述できた」と答えている。各公式を読むと、

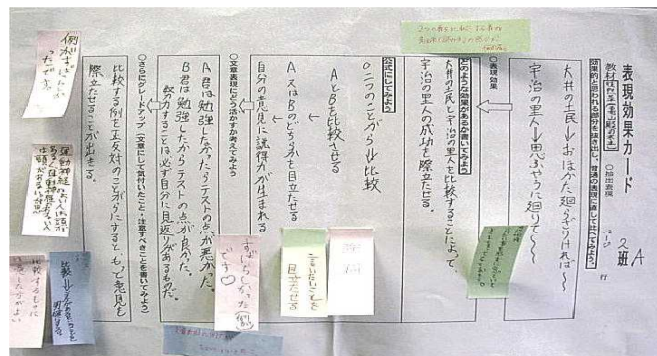
資料2 公式一覧

班	題材	公式の内容	効果の視点	工夫の仕方
1	方丈記	比喩を使うことにより読み手に分かりやすく、印象深く伝えることができる。	平明さと個性	表現の工夫
2A	仁和寺にある法師	失敗しそうな人の失敗を例として挙げることで、文末の結論が印象づけられる。	説得力	内容、構成の工夫
2B	龜山殿の水車	正反対の二つの事柄を対比させることによって一方を際立たせる。	説得力	構成の工夫
3	方丈記	比喩が内容を分かりやすくする。対句によってリズムがよくなる。	平明さ・リズム	表現の工夫
4	方丈記	自問自答した表現が読者の共感を呼ぶ。比喩や対句を使うことにより分かりやすくなる。	平明さ・避板（ひばん）	表現の工夫
5	奥山に猫また	徐々に話を盛り上げて最後に落とす。[漸層（ぜんそう）法・反漸層法]	話の面白さ	展開の工夫
6	丹波に出雲といふ所	会話部分を有効に使って文章を引き締める。決め台詞（ぜりふ）で結ぶ。	話の面白さ	表現の工夫、結びの工夫

、文章展開の工夫、さらには、内

容全体にかかわるものまで、多岐にわたっている。しかも、どれも題材の内容や筆者の表現意図と関連させて考えられており、表現効果について生徒が深く分析していることがうかがえる。さらに、作成したカード（公式）を全員で共有するために、相互評価を行った。班ごとに発表し、発表されたカードに対する賞賛の意見や改善案などを各自が付箋に記入し、発表用のカードに貼り付けた。その結果、生徒の思考に深まりが生じ、カードの内容を理解するだけでなく、様々な視点で効果的な表現について考察することができた（資料3）。例えば、「失敗しそうにない人の失敗を描くという表現の工夫が結末を印象付ける効果を生み出す」という2班Aが作成した公式の効果の部分に対して、「教訓話になる」「話が面白くなる」という別の意見を付箋に書いて提示した生徒がいた。公式の内容を自分なりに咀嚼し、表現とそれがもたらす効果について分析している。表現効果についての理解がなければ出し得ない意見であり、本学習活動を通して生徒は様々な表現方法を身に付けたと考える。

資料3 A子所属班のカードと検討例



例えば、「失敗しそうにない人の失敗を描くという表現の工夫が結末を印象付ける効果を生み出す」という2班Aが作成した公式の効果の部分に対して、「教訓話になる」「話が面白くなる」という別の意見を付箋に書いて提示した生徒がいた。公式の内容を自分なりに咀嚼し、表現とそれがもたらす効果について分析している。表現効果についての理解がなければ出し得ない意見であり、本学習活動を通して生徒は様々な表現方法を身に付けたと考える。

A子は2班Bに属し、「亀山殿の水車」（徒然草）を扱った。この題材で筆者が述べたいことは「専門家の優れていること」である。登場する「宇治の里人」が水車を作る専門家であることを押さえた後、「もう一方の『大井の土民』を登場させた意図は何か。」と問いを投げかけたところ、班員の一人から「宇治の里人の優秀さを強く言うため。」という意見が出された。さらに、「表現する上で何をどう工夫しているか。」の問いに対し、A子が「二者を比較することによって宇治の里人を際立たせている。」「構成の工夫をしている。」と答えた。このことから、文章の効果を探る視点がA子の中に育ち、文章構成という視点から題材を分析する力が身に付いたと考えられる。また、表現効果カード検討の場面では、積極的に付箋に意見を記入し、多くの改善案を提案した。本活動を通してA子の表現に対する見方が広がり、様々な表現方法を身に付けたと考える。こうした学習の効果は、「今回の授業はとても楽しかった。班になってみんなで話し合っていると、自分では気付かなかった点があったり、自分の視野が広がったりしてとてもためになった。」というA子の自己評価表②にある感想からも確認できた。

### 3 作成した表現効果カードを基に検討する活動が目的や場面に応じて効果的に表現する力を身に付け、文章表現力を向上することに有効であったか

まとめとして全員で共有化した公式を使って文や文章を書き、相互評価する活動をワークシート③（資料編参照）を使って行った。各自が示された例題（書き換えたり、表現したりする）に取り組んだ後、相互に見せ合い、アドバイスし合うことで、目的や場面に応じて効果的に表現することを目指した。当初、生徒は例題に取り組むことができなかったが、題材と公式の内容とを比較することで、各公式の活用場面を具体的に想起するよう教師が助言したところ、多くの生徒が効果的に表現することができた。以下、その表現例を挙げる。

- ① 数ある楽器の中でもギターは素晴らしい。ドラムはステージに固定されて演奏中動けないが、ギターは自由にパフォーマンスができる。走ったり跳んだりすることのできるギターはまるでスポーツのようだ。今日も私はステージ上で動き回っている。（A子作成）
- ② 見逃すな小さな甘えが大きな事故へ
- ③ 友達とカラオケに行き、僕が歌うといつも「おまえの後は歌いづらい」と言われる。

②では、「小さな」と「大きな」を対比させた「対句」を使っている。ほんの小さな油断が取り返しのつかない大きな事故へとつながることを言い得た標語だ。③では、生徒が題材から見つけ出した公式ではないが、第1時にワークシート①で学んだ「婉曲（ぼかして言う）」の公式が使われている。自慢話はだれでもはっきりと言にくいものだが、間接的に自分の歌がうまいということを的確に表現している。これらの表現例から、多くの生徒が目的や場面に応じて効果的に表現する力を身に付けたと考えられる。

A子は、他の生徒同様、公式を自らの表現に活用することに苦労したことを「専門的な公式を使って文を書くのは、初めてだったのでとても苦戦しました。」と自己評価表で述べている。このような状況の中、「身の回りにあるもので何の魅力について主張したいか」、「そのものの魅力を際立たせ、効果的に表現するのにどの公式を使えばよいか」という助言を与えたところ、直ちにA子自身が探り当てた「対比」の公式を使う方法に気付いた。さらに、他の公式も使うよう促すと、「比喩」を使った表現をすることができた。相互評価する過程で、他の生徒が結びを工夫した表現をしていることに気づき、熟考した後、上記①の文章を完成した。ギターの魅力とドラムと対比させることによって際立たせ、ステージパフォーマンスの様子をスポーツに喩えている。結びも工夫され、印象深い終わり方となっている。一般的に比喩（直喩）は、関連性がないと思われる二者の中に、共通性を提示することによって読者に共感と驚きをもたらすと言われているが、A子の表現は、結びつきそうもない二者をうまく結合してギターの特長を明瞭かつ个性的に表現していると言える。教師の導きがあったとはいえ「対比」「比喩」「決め台詞（結びの工夫）」の三つの公式を的確に活用しており、本学習がA子の表現力向上に有効であったと考えられる。その他の例題についても意欲的に取り組む姿が見られたA子は自己評価表③（資料編参照）で、次のように感想を結んでいる。「今回やったことが自分の中でとても役立ちました。文を書くことが好きになるだけでなく、得意になりたいです。」文章表現力の向上を実感したA子の表現に対する意欲は、以前にも増して高まったと思われる。

## Ⅶ 研究のまとめと今後の課題

- 本研究を通して、多くの生徒が様々な公式を作成し、それらを自己の表現に活用することができた。自己評価表③で95パーセントの生徒が文章表現への意欲が以前より高まったと答えたことから、生徒は文章表現の面白さに気付いたものと思われる。
- 公式を自己の表現に活用する場面では、当初苦労する生徒もいた。個々の生徒にきめ細やかな支援をするためには、教材にさらに工夫が必要であると考えられる。また、本研究は学習のねらいを表現効果に絞ったものである。文章表現力の向上にはその他の様々な要素が求められる。総合的に文章表現力を向上するために、今後は長期的な視野に立って、継続的、計画的に文章表現指導を行っていく必要があると考える。
- 実践の場での各公式と付箋に書かれた意見を読むと、口語訳付きのテキストを生徒に提示してあるとはいえ、未習の題材でも生徒がかなり深く読み取っていることが分かる。表現の特色を探る活動が題材を深く読むという活動と結びついたと言える。このことは、詳細な読解に偏りがちであった従来の古典学習改善の一助となると考える。

### 〈参考文献〉

- ・植垣節也 著 『文章表現の技術』 講談社現代新書（1979）
- ・瀬戸賢一 著 『日本語のレトリック 文章表現の技法』 岩波ジュニア新書（2002）
- ・中村 明 著 『文章の技 書きたい人への77のヒント』 筑摩書房（2003）
- ・岩永嘉弘 著 『一行力』 草思社（2004）